



米本隆記議員

文化祭はどうなるの

町長 来年までは全町一本で

問 昨年合併後初めて行った第1回大山町総合文化祭は大変にぎわいがあつた。しかし、町長は選挙前に文化祭は地区ごとで開催すると発言していた。

① なぜ地区ごとが良いと思うのか。
② 町民が幅広く交流できる新たな事業の考えはあるか。



園児たちによるステージ

答 (森田町長)
① 各地区で産業、環境

や食、文化・歴史と趣向を凝らした文化祭を開催し、ふれあいと交流をそれぞれ深めてきた。昨年会場で初めて行った総合文化祭は成功裡に終わった。反省会の中で「遠くて足を運びづらい」「大山トレセンは遠いという印象があり中山地区の参加が少なかったのでは」などの意見もあつたが、「全体の作品が一度に鑑賞できた」「多くの町民が集まり、にぎわっ

て非常に良かった。」との意見もあつた。反省会

の中で今年は、10月の24・25日と開催が決定されており、さまざまな意見をふまえ、1回実施しただけで終わらせるのではなく、名和・中山でも開催する。そして、広い町内に浸透して勢いがある催しか、地域住民から遠くなつていないかなどの反省もふまえ、その後の反省もふまえ、その後のようにするのか検討する。

② 今年度から立ち上げた総合型スポーツクラブ設立準備委員会と共催し、健康増進の観点からの特別講演や町民が気軽に参加できるイベントなどの実施を考える。また、野球、バレー、グラウンドゴルフなど実際に交流を深めている事業もある。

これからの教育は

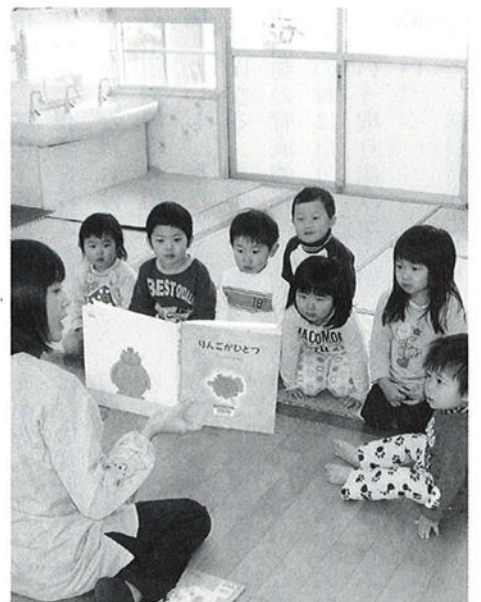
教育委員長

10年先を見つめて

問 合併して4年間の教育行政は、教育委員会に

幼児教育課の新設や本の読み聞かせを通じて聞く力を高め就学前の教育に力を入れてきた。また、小学3年生から中学校まで町内の史跡、文化を解説した冊子を配布している。この背景には大山町を知りふるさとを愛する心を養うためと聞いている。
① 公約の「三つ子の魂100までプロジェクト」は何か。
② これからの教育のあり方の考えは。
③ 今後の教育行政の考えは。

答 (森田町長)



園児に読み聞かせ

① 私も議会の中でいろいろと取り組んだ問題である。幼児教育課、保健福祉課の取り組みは私の思いと共通している。広く地域全体で子供たちを見守り育てる重要性が高まってきている。本町の財産となる子供たちを健康でたくましい取り組みにするためプロジェクトという言葉にした。

② 本町の大きな魅力である大山から日本海までの特色ある自然環境・産業や歴史・文化を生かし、人と人、人と自然がつながる町、ふるさとを愛し、思いやりのある町、心豊かでたくましい人づくり

答 (伊澤教育委員長)

が教育の基本にあるべき。

③ 就学前から中学卒業まで一貫した教育の中で自立した社会人となる土台を作る。そして、ふるさと大山町を愛し誇りが持てる子供を育てたい。そのためさまざまな施策、支援や10年、15年先を見据えながら教育環境の整備をする事が役割と認識している。そうした子育てのために福祉部局、保育所から中学校までの横と縦の連携の強化を図る。教育委員会は独立した部局。町長、教育長が変わろうともこれは教育行政の普遍の柱である。